

令和二年度 学校関係者評価書

鈴鹿市立白子小学校

鈴鹿市立白子小学校					
評価項目	本年度の活動（具体的な手立て）と指標	達成状況	成果と課題	学校関係者評価	今後の改善点
学力保障 (研修)	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学年及び特別支援学級による全体授業研究を実施する。</li> <li>全国学力学習状況調査の分析を組織的に行い授業改善に生かす。</li> <li>少人数教育を推進する。</li> <li>補充学習，家庭学習を充実する。</li> <li>外国語学習の指導体制を整備する。</li> <li>読書指導を充実する。</li> <li>学習支援ボランティアの活用を推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>5年生は，10月にビデオの視聴による研究授業を実施，また3年生は，11月に研究授業を実施した。</li> <li>みえ・スタディチェックの分析結果で見えた課題を改善させる手立てを学習指導案に反映させて公開授業をした。</li> <li>1～4年生で算数科と国語科でTTによる授業を行った。</li> <li>全校体制で算数の自主プリントの取組を行った。</li> <li>夏休みにサマースクールを各学年2～3日間実施した。</li> <li>「家庭学習のてびき」を作成し，全教員で家庭学習の意義や方法を共有し，指導にあたった。</li> <li>「ファミリー読書」（11月）を実施し，家庭での読書活動に取り組んだ。</li> <li>新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の一環として，学習支援ボランティア及び読み聞かせボランティア（ブックック）の活動については，鈴鹿市教育委員会及び学校の運営方針に沿った形で，計画していたものよりも縮減して実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童アンケート「授業はわかりやすいですか。」に（93.6%）の肯定的回答を得た。</li> <li>算数の自主プリントと音声計算の取組を継続したことにより，基礎学力の向上が見られる。</li> <li>サマースクールに参加する児童を絞ったことにより，効果的な支援ができた。</li> <li>依然，読書習慣，家庭学習習慣の定着に課題がある。</li> <li>学習に対するつまずき，苦手意識のある児童が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍で家庭で過ごす時間が多かった。そのため，学校と家庭が協力し合い，子どもたちの読書の習慣を身に付けられるように進めれば，よかったのではないかと考える。</li> <li>休校期間があったことで，学習のスピードについていけない子どもたちがいたかもしれません。そのような子ども達への支援も忘れずに実施していただきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学び合いを深めることは今後も大切にする。算数科を中心に取り組んだ「学び合い」や「めあて・まとめ（振り返り）」を他教科でもできる範囲で充実していく。</li> <li>授業と関連した家庭学習の課題の提供，提出後の確認や理解が不十分な児童への指導等，家庭学習を効果的に行い，基礎学力の定着を図る。また，年度当初に「家庭学習のてびき」を配布し，その意義や方法を保護者に周知する。</li> <li>教育用ICT活用に関する研修会を引き続き行い，次年度から児童一人一台配布される端末を活用し，授業改善につなげる。</li> <li>様々な読書指導に対してより意識的に取り組み，読書の楽しさを伝える。</li> <li>新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を進めながら，一人ひとりの児童に応じたきめ細やかな指導ができるように，学習ボランティア，読み聞かせボランティア等の活用についても検討していく。</li> </ul>
キャリア教育 (研修)	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域学習や社会見学など働く大人の姿を見る機会を大切に児童の職業観の基礎を育てる。</li> <li>夢工房などゲストティーチャーによる出前授業を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活科，社会科，総合の地域学習の中で，働く人から様々な仕事について学ぶ機会を得た。社会見学は，新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の一環として，実施できなかった。そのため，地域探検や講師を招いての出前授業を実施し，できる範囲で学ぶ機会を保障した。</li> <li>5年は，JFA心のプロジェクト「夢の教室」の開催（11月26日）した。（講師：スポーツ競技「セパタクロー」の選手 寺島武志さん 体操選手として活躍されていた上村美揮さん）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>仕事をする楽しさ，働くことで得られる喜びを感じることができた。</li> <li>伝統的な仕事，生活を支えている仕事に興味を持つことができた。</li> <li>子どもたちが自分自身の夢の実現に向けて前向きに取り組む，考える機会となった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度は，社会見学を全ての学年で実施することができなかったが，地域の魅力を改めて学ぶ上でも，可能な範囲で，地域探検を実施されたり，代替授業を実施されたことはよかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を進めながら，可能な範囲で，地域学習や社会見学など働く大人の姿を見る機会を大切にしていく。また，地域の方々や夢工房などゲストティーチャーによる出前授業を実施を検討していく。</li> <li>キャリアパスポートの有効活用を図っていく。</li> </ul>
特別支援教育 (人権・特支)	<ul style="list-style-type: none"> <li>全職員の共通理解のもとで支援の必要な子どもの対応に当たる。</li> <li>一人一人に応じた支援を進めるため支援会議を開催する。</li> <li>個別の教育支援計画の整備を進める。</li> <li>特別支援教育の視点に立った教育環境を整える。</li> <li>保護者や関係機関との連絡を密にし，子どもの実態に応じた授業や指導を進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>支援の必要な子について保護者を交えて支援会議や面談を実施し，今後の支援のあり方を検討した。</li> <li>朝の打ち合わせ，職員会議などで支援の必要な子について情報交換を行った。</li> <li>個別の支援計画は，希望に応じて，年度のはじめに保護者とともに見直した。</li> <li>個別の指導計画は学期毎に記入した。</li> <li>特別支援教育に視点をおいた教室掲示（児童の集中の妨げにならないように教室前面の掲示等を抑える）を行った。</li> <li>幼稚園・保育所に連絡を取り，就学前の児童についての情報を得て，必要に応じて支援会議を行った。</li> <li>中学校と連携し，個別の適切な支援につなげるための引継ぎ支援会議を5件実施した。</li> <li>子ども家庭支援課，スクールカウンセラーと連携して，子どもの支援を進めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援学級の子ども達ひとりひとりが，それぞれのペースで力をつけてきている。</li> <li>支援の必要な子を取り巻く周りの子ども達も，あたたかく関わる雰囲気ができている。</li> <li>保護者と個別の支援策について議論を重ねることで信頼関係を深められた。</li> <li>支援が必要な児童の増加と，障がいの種別・程度の多様化がみられる。よりきめ細かい支援のためにも人員増が望まれる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援学級の子ども達の指導は配慮する部分が多いかと思うが，特別支援学級の子どもが楽しく学校に登校できる環境を引き続き学校全体で作っていけるとよいと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人権教育の中で特別支援学級に在籍する児童について理解を深める取組を進める。</li> <li>支援の必要な児童について，組織的な支援体制を構築すると共に，関係機関との連携を密にする。</li> <li>特別支援教育の視点を取り入れた「分かりやすい授業づくり」を工夫する。</li> <li>介助員の増員を要望し，指導や支援の充実を図る。</li> </ul>

鈴鹿市立白子小学校					
評価項目	本年度の活動（具体的な手立て）と指標	達成状況	成果と課題	学校関係者評価	今後の改善点
外国人児童生徒教育 （人権・特支）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・JSLバンドスケールを活用した日本語教育の推進</li> <li>・全ての子どもにわかりやすい授業を行う。</li> <li>・日本語の習熟に課題のある児童の個別指導を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・JSLバンドスケール判定会議を1月に実施した。</li> <li>・拡大印刷や写真・図、ICT機器等を活用した視覚支援を行い、分かりやすい授業を行った。</li> <li>・日本の小学校の生活に慣れていない児童については、支援教員や支援員を配置し、日常生活・学習の両面で支援した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・JSLバンドスケールの判定から、児童の成長が見られた子もいる。</li> <li>・外国人児童が増加し、学習言語が難しい子もいるので、取り出し授業を増やす必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国人児童が白子小学校でも増えてきています。これからも安心して通い続けられるように、一人ひとりの実態に応じた指導をお願いしたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適切に取り出し授業を設定し、外国人児童の学力保障を図ると共に、人権面での充実を図る。</li> <li>・多文化共生教育の取組を充実する。</li> </ul>
人権教育 道徳教育 心の教育 （人権・特支）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権尊重を基盤にすえた日常の授業実践を進める。</li> <li>・人権意識を高めるための研究授業を実施する。</li> <li>・人権が尊重される人間関係づくり、学級づくりを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたち同士の学び合いを視点に授業研究を行い、一人ひとりを大切にする授業を進めた。4年は、11月に、6年生は、12月に学年部研究授業を実施した。2年生は、11月に全体研究授業を実施した。</li> <li>・身近な学校生活の中にあるいじめにつながる言動を教材に、毅然とした指導につなげたり子どもたちと話し合う機会を持ったりした。</li> <li>・全学年で人権ポスター、3年以上で人権作文に取り組んだ。</li> <li>・レポート研修会を夏休みに実施した。1学期と三学期にレポートを作成した。</li> <li>・毎学期全クラスで「いじめアンケート」を実施し、いじめについて考える機会を持った。</li> <li>・6年生は中学校区人権フォーラムにあわせ「いじめ・差別をなくすために私たちができること」というテーマで話し合い、学級の課題や今後の取組について考えた。</li> <li>・いじめ防止のための掲示作りに取り組んだ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童アンケートの結果、「学校には仲良しの友だちがいますか。」にこの3年間、97%→97.2%→97.0%との肯定的回答を得ている。「先生はあなたの話をよく聞いてくれるか。」には、96%→97.0%→96.9%であった。仲間づくりの取組や、子ども達の思いに寄り添う指導が成果を挙げていると考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は、コロナ禍の中、心身ともに心配な面がたくさんあったと思われる。例えば、休校明けの人間関係づくりや学習への不安などである。引き続き、先生方をはじめ、スクールカウンセラー、スクールライフサポーター、保護者、友だちや本人の力で少しずつでも良い方向に進んで、乗り越えていっていただきたい。</li> <li>・大変な一年だったが、運動会も開催できた。何より日常生活を学校で過ごせたことが良かった。</li> <li>・今後は、SNSを通じたいじめの指導にも力を入れていただきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常の授業において、子どもたちが学び合う場面を設定する。</li> <li>・児童間のトラブルに対して、現象だけでなく、その理由や背景を受け止めながら、児童の気持ちに寄り添った指導する。また、いじめ等の事案は、初期対応を大切に組織的体制で指導にあたる。</li> <li>・レポート研修のためのレポートの書き方について研修を深め、教職員の人権感覚を高める。</li> </ul>
生徒指導 （生指）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつをはじめ基本的な生活習慣を定着させる。</li> <li>・毎月、児童について情報交換を行い全職員の共通理解のもとで指導にあたる。</li> <li>・日常の地道な指導に努めるとともに、問題行動発生時には、迅速かつ組織的に、必要に応じて関係機関との連携を図り対応する。</li> <li>・防犯、交通安全、防災指導を充実する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員会議で児童について情報交換を行った。</li> <li>・職員の打合せ等で問題行動・事故等についての情報共有を図り、必要に応じてチームとして対応してきた。</li> <li>・翌月の職員会で成果と課題等話し合った。</li> <li>・児童の生活意欲や学習意欲につながる承認活動を効果的に実施した。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の一環として、計画していた出前授業を実施できなかった。そのため、各学年の特別の教科道徳や学活、教科活動等において、補充する学習を行った。</li> <li>・不審者情報に対してパトロールの実施や関係機関（白子交番、教育支援課、児童支援隊）との連絡、保護者へのメール配信等で迅速に対応した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者アンケート「お子さんは進んで家族にあいさつをしていますか。」で肯定回答が(86.7%)だった。</li> <li>・アンケート「お子さんは、元氣よく学校に行っていますか。」に(96.7%)の保護者が肯定的回答であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の登下校時に見守りをしているとき、元氣なあいさつをしてもらうととても嬉しい。自分から、「おはようございます。」「有難うございます。」と言ってくれる子どもがいるので、気持ちがよい。</li> <li>・暗い時間帯に一人で自転車に乗り帰宅する子を見かけることがあります。引き続き、暗くなる前に帰宅する指導をお願いします。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も、生徒指導委員会であいさつ運動に取り組んでいく。</li> <li>・生徒指導上の問題行動等は、全教職員で情報共有を図り、組織的体制で指導にあたる。</li> <li>・SNS関係等の問題に関しては、外部講師を招いて指導していく。</li> <li>・不審者情報に対しては、状況に応じて学校から教育委員会・白子交番・児童支援隊へ連絡すると共に、教員の見回り、保護者への緊急メール配信を行い、学校・家庭・地域が連携して対応する。</li> </ul>
地域ぐるみの教育 （研修）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鈴鹿型コミュニティ・スクール（学校運営協議会）を年5回開催し、地域との交流を推進する。</li> <li>・地域と連携した全校避難訓練、引き渡し訓練をはじめ、地域ぐるみで防災・防犯体制の整備を進める。</li> <li>・保護者アンケート・児童アンケートを12月に実施する。</li> <li>・児童支援隊との情報交換会を行い、保護者・地域のニーズの把握に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校運営協議会を年5回（書面開催2回を含む）開催し、熟議の内容を学校運営に生かした。新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の一環として、中学校区の学校運営協議会は中止となった。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の一環として、毎年地域のもと実施していた白子中学校へ避難する津波訓練及び引き渡し訓練を実施できなかった。そのため、各学年及びベア学年において、防災教育を実施した。</li> <li>・情報交換会が実施できなかった代わりに、児童支援隊からのご意見を書面で頂き、出された意見を児童の安全管理に生かすとともに、協力を求めた。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の一環として、計画していた昔遊び体験を実施することができなかった。</li> <li>・寺家地区では、ラジオ体操を行い、地域についての理解を深めた。</li> <li>・白子地区自治会連合会の主催で、海岸清掃が実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校運営協議会での熟議の内容を学校通信に掲載した。</li> <li>・地域の方々に学習面、安全・安心面、環境整備面でたくさんのご支援を頂いている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は、学校運営委員会をはじめ、地域の方に参加して頂く活動に制限があった。地域の方と触れ合うことで小学校のことを知っていただいたり見守っていただいたりしている。子ども達も地域の方々に支えていただいている。そして、子どもたち自身も地域の一員だと感じられると思う。コロナ禍が一日も早く終息し、小学校と地域が連携した地域ぐるみの教育が再開されることを願っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校運営協議会の充実をはかり、学校と地域の効果的な連携・協働に努める。</li> <li>・学習のねらいを踏まえ、地域教材を有効に活用する。</li> <li>・地域・家庭と連携した全校避難訓練、引き渡し訓練をはじめ、地域ぐるみでの防災・防犯の取組を継続・充実する。</li> </ul>